

幼稚園教育実習生への指導のあり方に関する一考察 ～実習現場における指導の実態を中心に～

Considering Ways to Coach Kindergarten Teacher Trainees : Emphasizing the Teaching Realities of On the Job Training

開 仁 志 大 平 泰 子
HIRAKI Hitoshi and OHIRA Taiko

I 目的

富山短期大学幼児教育学科（以下短大）では、様々な実習が行われる。（表1、表2参照）

様々な実習がある中で、短大では、事前事後指導、実習中の訪問、幼稚園・保育所現場の保育者との実習懇談会を行い実態把握、改善に努めている。しかし、実際の実習現場ではどのように実習指導が行われているかについて把握していない面もある。

筆者は、これまで、教育実習Ⅰ（附属幼稚園実習）（開、2006）^①、保育実習Ⅰの2（施設実習）（開、2008）^②、保育実習Ⅱ（保育実習）、保育実習Ⅲ（施設実習）（開、2007）^③において実習後に幼児教育学科の学生（以下実習生）に対してアンケートを取り、実習現場がどのような指導体制をとり、何を重視して実習生に対して指導しているかを明らかにしてきた。

本研究では、初めて実習を体験する1年生の教育実習Ⅰと短大において最後の実習となる2年生の教育実習Ⅱ終了後に実習生に行ったアンケートを元に比較することで、附属幼稚園と外部の幼稚園現場での実習指導の実態と、具体的な指導の内容、実習前に短大に望まれる指導内容について明らかにしたい。

表1 実習計画（平成19年度入学生）

実習時期		実習名称
1年次 後期	10～12月 (隔週)	教育実習Ⅰ
	10月(連続)	保育実習Ⅰの1
	2～3月(連続)	保育実習Ⅰの2
2年次 前期	4～6月(隔週)	教育実習Ⅰ
	6～7月(連続)	保育実習Ⅱ orⅢ
	9月(連続)	教育実習Ⅱ

表2 実習計画（平成20年度入学生）

実習時期		実習名称
1年次 前期	5～7月 (隔週)	教育実習Ⅰ
	9月(連続)	
1年次 後期	10月(連続)	保育実習Ⅰの1
	2～3月(連続)	保育実習Ⅰの2
2年次 前期	6～7月(連続)	保育実習Ⅱ orⅢ
	9月(連続)	教育実習Ⅱ

II 方法

教育実習Ⅰ、Ⅱ終了後の実習生を対象として集合調査法によりアンケートをとり、分析・考察する。

1 実習生内訳

教育実習Ⅰ（1年生93名）

教育実習Ⅱ（2年生96名）

2 アンケート実施時期

教育実習Ⅰ（平成20年10月17日）

教育実習Ⅱ（平成20年10月14日）

3 回収率

教育実習Ⅰ 93名中92名（99%）

教育実習Ⅱ 96名中96名（100%）

III 結果及び考察

1 現場で行われている実習指導の実態

(1) 配属クラス人数

1年生は、全員付属幼稚園で実習を行うため、配属クラス人数の把握が容易である。平成20年度は、1クラスにつき、3歳児26名、4歳児18名、5歳児18名である。年度によって人数の増減はあるが、ほぼ毎年、今年度のようなクラス人数であることから、クラス人数による指導内容の変化はあまり求められていないと言えよう。

しかし、2年生は、県内の様々な幼稚園で実習を行うため、配属されるクラスの人数は様々である。アンケートを元に、クラスの人数を表したものが、図1になる。配属クラスの人数により、環境の構成、保育者の援助や留意点に違いが出てくると思われる。事前指導において、少人数の場合や大人数の場合の保育内容や方法について指導する必要があると考える。

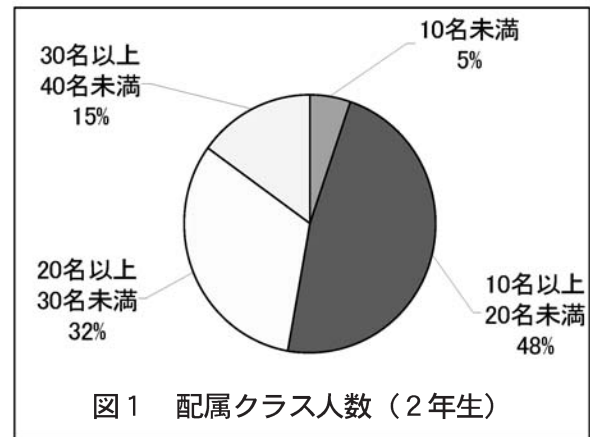


図1 配属クラス人数（2年生）

(2) 担当年齢

教育実習において担当するクラスの年齢を示す。1年生の教育実習Ⅰにおいては、図2のとおりである。3歳児クラスのみ1クラスであり、4, 5歳児は2クラス編成である。そのため、3歳児を担当する実習生の割合は低くなる。

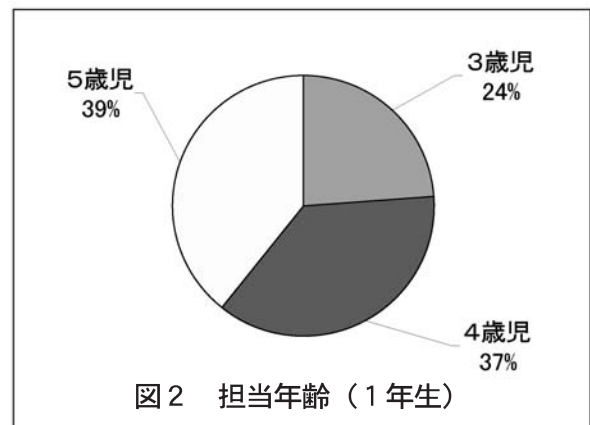
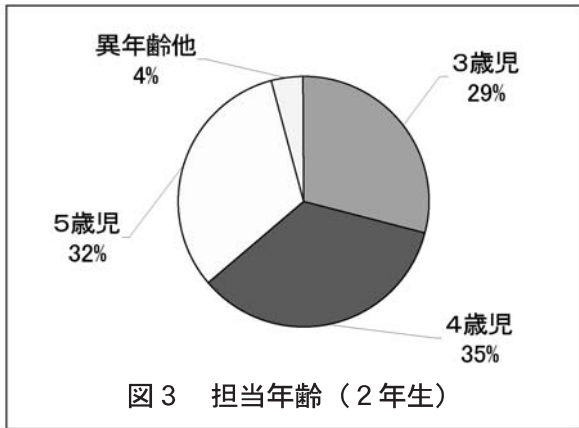


図2 担当年齢（1年生）

2年生の教育実習Ⅱにおいて担当するクラスの年齢は、図3のとおりである。若干3歳児が少な目だが、ほぼ3, 4, 5歳児同じような割合で担当しているようである。幼稚園によっては、担当するクラスを固定化せず、各年齢を経験させるところ、異年齢クラス編成を行っているところも見られた。各幼稚園の実習方針の把握を踏まえた上で、発達年齢に合わせた保育内容・方法について、今後一層短大の事前指導において望まれると推測する。

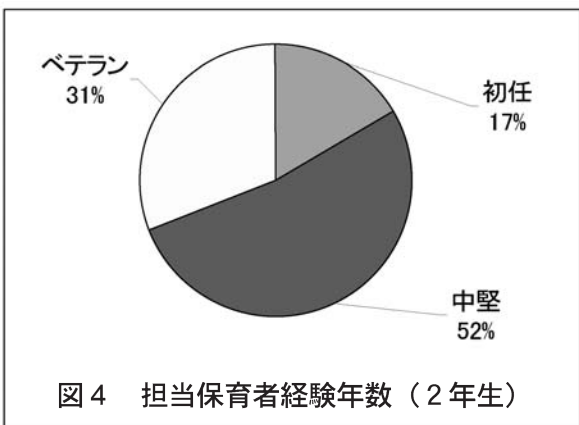


(3) 担当保育者経験年数

実習を担当する保育者の経験年数把握も、付属幼稚園では容易である。5クラス5名の担当者があるが、初任者（1～5年）は0名、中堅（5～15年）4名、ベテラン（15～20年）1名である。

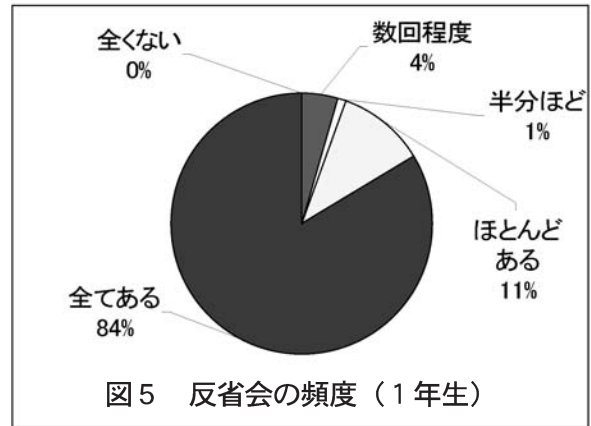
図4は、2年生が教育実習Ⅱで担当してもらった保育者の経験年数である。中堅とベテランを合わせると83%となる。この結果は、以前保育実習Ⅱ・Ⅲで行ったアンケート結果（83%）と同様である。^④

日々の保育以外に実習指導を行うことや、指導を行うためにある程度の保育経験が必要となることから、幼稚園における教育実習においても、保育所、施設における実習と同様、中堅以上の保育者を実習担当者として当てることが多いことが推察される。

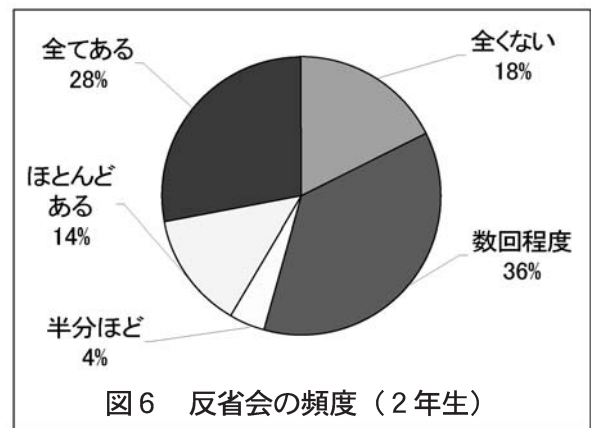


(4) 反省会の実施頻度

1年生の教育実習Ⅰでは、付属幼稚園ということもあり、実習終了後は毎日反省会を実施していることがほとんどである。反省会の頻度は、「ほとんどある」と「全てある」を合わせて95%になり、「全くない」というのは、0%である。



それに対して、2年生の教育実習Ⅱでは、毎日の実習終了後に反省会を行っているところの方が少数派になる。「ほとんどある」「全てある」を合わせても42%で半数に満たない。「全くない」「数回程度」のところは、54%になり過半数を占める。



付属幼稚園は、実習を行うことを設立の目的の一つとしていることから、全て中堅以上の保育者が実習を担当するなど学生を受け入れる体制が整っており、延長保育も行っていないこと

から時間の確保が容易であることが予想される。外部の幼稚園では、初任者が実習を担当することがあったり、延長保育等を行ったりしていることから反省会をする余裕がないことが推測される。

この結果は、保育実習Ⅱ・Ⅲのアンケート結果と同様である。（「全くない」「数回程度」を合わせて57%）⁵⁾

付属幼稚園を経験後、外部の実習をするに当たって、外部では、特別に反省会の時間が無いことも予想されるので、質問があったら、できるだけ後回しにせず、その場で積極的に聞く姿勢について事前に指導する必要があると考える。

2 実習生の睡眠時間について

実習生は、実習時間が終了した後も、その日の保育を振り返り実習日誌を書いたり、次の日に向けて教材研究をしたり指導案を書いたりすることになる。保育現場での実習時間終了後にも実習にかかわる時間を費やしていることが推測される。ここでは、短大の生活と比べて実習時期は睡眠時間がどのように変化したか調査し、考察する。

実習時期は、前述の理由から1、2年生共に睡眠時間は減るが、1年生は減った者が86%にのぼるのに比べ、2年生は、67%に留まる。

このことから、初めて実習を体験する1年生は、要領が分からず、実習日誌や指導案を書くこと、次の日の準備などに時間がかかっていることが推測される。

しかし、中には、睡眠時間が短大生活と比べて増えた者も見られる。この実習生は、実習時期はできるだけ規則正しい生活をして体調を整えることから、却って夜更かしをせず、睡眠時間が増えているのではないかと考える。

睡眠時間を最低睡眠時間、平均睡眠時間、最高睡眠時間に分けて調査した。その結果が、表3である。最低睡眠時間の平均はあまり差が見られなかったものの、平均睡眠時間は、1年生

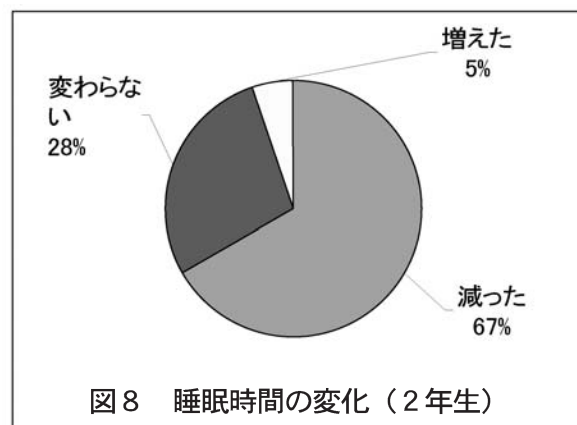
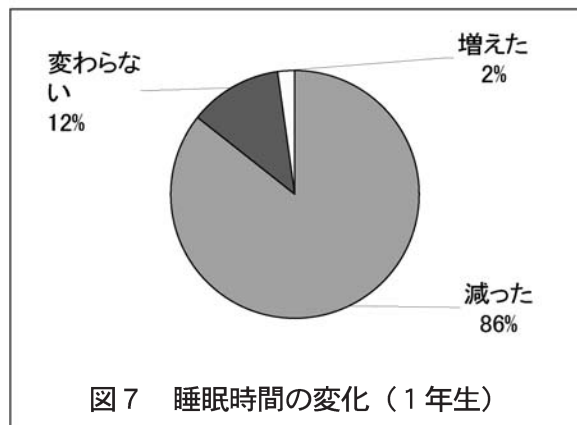


表3 睡眠時間（2年生）

学年	最低時間	平均時間	最高時間
1	3.5	4.8	6.0
2	3.6	5.3	6.7

と2年生では、0.5時間の差があり、最高睡眠時間では0.7時間の差があった。やはり、2年生の方が実習に慣れている分、平均睡眠時間を多くとれる傾向があると推測する。

最高睡眠時間は、1年生は1週間連続の実習であり、休みを挟まないため、休み中に長く睡眠をとることができないことから違いが出てきたと考えられる。2年生は2週間連続の実習となり、休みを挟むため、休み中に最高16時間の睡眠をとった者もいる。

3 指導内容の評価

実習において指導された内容を、7項目に分け、5段階評価で聞いた。数字が大きくなるほど、指導においてよい評価を受けていると感じていることを示している。(図9参照)

(1) 2年生と1年生の違い

全体的に2年生の方が、1年生よりよい評価を受けていると感じる部分が多い。保育内容の指導法を学び、実習をいくつも経験してきている2年生の方が全体的に評価がよくなるのは、納得できる部分である。

また、特に、2年生と1年生の差が大きかった部分は、「一人ひとりをよく見て対応すること」「気を利かして臨機応変に対処すること」「手遊びや保育教材の準備について」の3点である。この3点については、経験がある程度ないと身に付かない部分なのではないかと推察する。

1点だけわずかであるが「指導案の書き方について」1年生の方が2年生よりよい評価を受けたと感じる部分が見られる。これは、付属幼稚園の教諭と短大の実習担当教員が実習前に指導案の書き方について共通理解を図っていたことから、指導内容が一致していたことが影響していると考えられる。また、初めて教育実習を受ける1年生ということもあり、指導案の書き方について求めるレベルを低くしていることも関係していると推察する。

また、2年生の方が、指導内容について評価がよかった部分と悪かった部分を明確に意識していることがグラフから読みとれる。2年生は、一番評価がよいと感じた「手遊びや保育教材の準備について」が5段階評価で3.6であり、一番評価が低いと感じた「指導案の書き方について」が2.96ポイントと、0.64ポイントの差が見

られる。それに対し、1年生は、一番評価がよいと感じた「実習日誌の書き方」が3.24ポイントであり、一番評価が低いと感じた「クラス全体をよく見て対処すること」の2.97ポイントとの差は0.27ポイントに留まる。1年生は、回答を見ても5段階評価の中で3を選ぶ実習生が多かった。

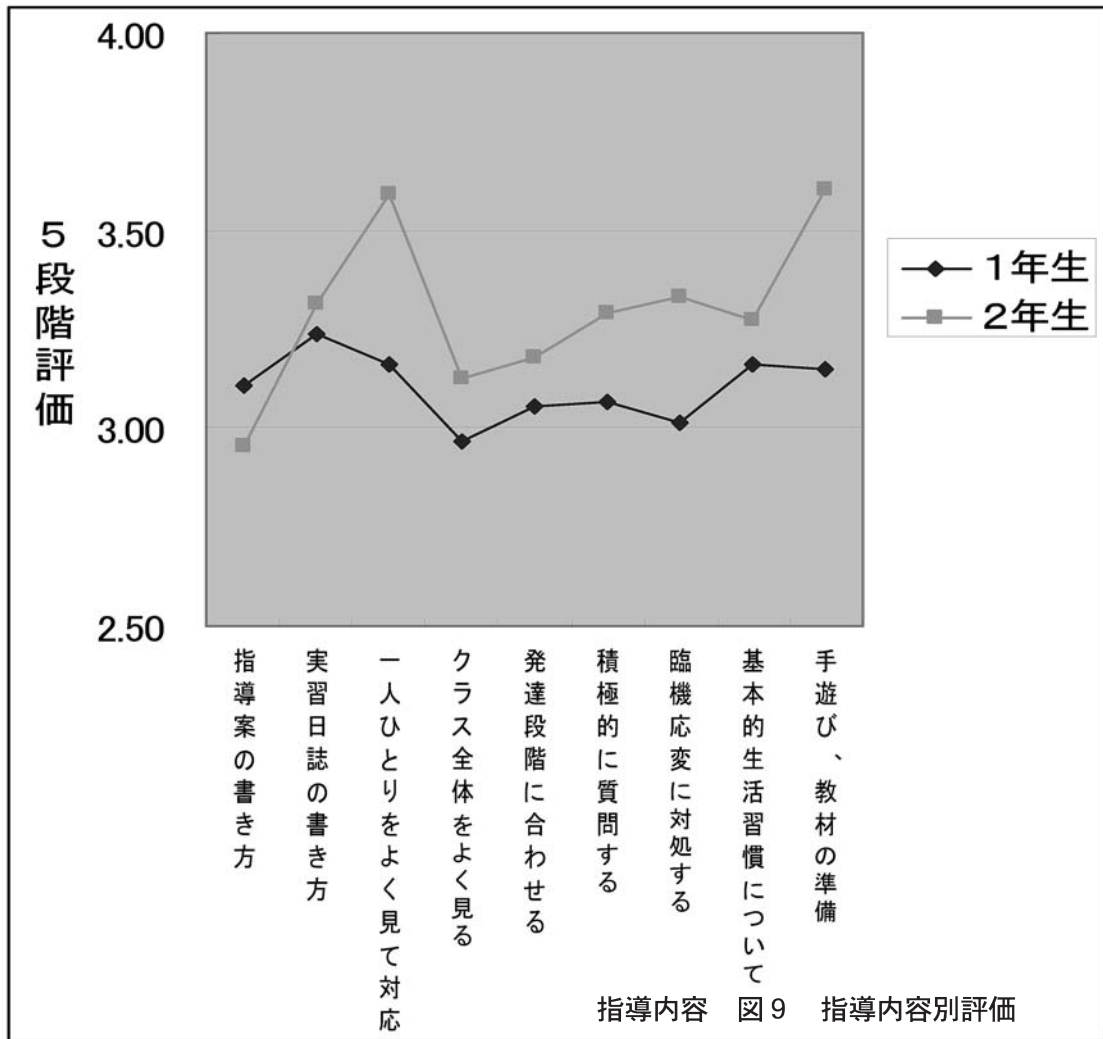
アンケート終了後に、全ての項目で3の評価を受けたと答えた実習生にインタビューしたところ、「よいと評価を受けたのか悪いと評価を受けたのか判断がつかない」と答えていた。

これは、1年生は初めての实習ということから、どちらかという付属幼稚園の教諭の補助的な立場で保育を行う面が強く、主になって保育を行う場合もサポートをしてもらう場面が多くなっていることが原因ではと推察する。

サポートを受ける部分が多いと、自分の中で、よい面と課題になる面を把握しづらい部分があるようである。

付属幼稚園の教諭の側でも、初めての教育実習ということから、適切な保育が「できる」という到達度レベルよりも、適切な保育を「しようとしている」という意欲のレベルで評価するように配慮してもらっているのではないかと推察する。

その点、2年生になると、外部の幼稚園の教諭から短大生活最後の実習であり、実習経験がある者という視点で評価を受ける。そこでは、はっきりと、適切な保育が「できるかできないか」という到達度レベルの視点で評価を受けることになるのではないかと考える。また、2年生の実習生自身も、自分がよい評価を受けている部分と課題となる部分を明確に意識化できるようになってくることが影響すると推察する。



(2) 具体的な指導内容

では、実際にどのような内容を指導されているのであろうか。自由記述で回答を得た。

① 文章の書き方での指導

基本的な文章の書き方、日本語の使い方などでの指摘を受けている。これは、実習指導のみならず、日々の教育活動の中で、身に付けていく部分とも言えよう。以下は、主な回答の抜粋である。

(1年生)

- 「方言を使わない」
- 「他の人が読んでも分かりやすいように書く」

「字をくずさない」

「誤字、脱字に気を付ける」

「カタカナ語を使わない」

「事実と考察を分けて書く」

「丁寧な字で書く」

「図示してわかりやすく」

「主語と述語の関係をしっかりと押さえる」

(2年生)

「話し言葉を使わない」

② 実習生の心構えに関すること

実習生の心構えに関しては、様々な指導を受けている。1年生は、まとめると、保育の意図を明確にし、積極的に子どもとかわりをもっ

ていく大切さについての指導を受けている。2年生になると、もう少し深く、子どもとの信頼関係、遊びの魅力の見極め、他の保育者との連携などについて指導を受けている。以下は、主な回答の抜粋である。

(1年生)

- 「ねらいと内容を明確にして、何のために行うのかよく考えること」
- 「子どもと同じ目線に立つこと、上から目線で指導案を書かない」
- 「考察が感想にならないように」
- 「子どもの活動を予想すること」
- 「子どもの遊びの展開をもっと考えて細かく指導案を書く」
- 「これからどうしたいか意図を明確に」
- 「子どもの気持ちを読みとり、子どもの裏の顔も見ること」
- 「次の行動を予測して準備すること」
- 「臨機応変に対応すること」
- 「子どもに対する愛情をもつこと」
- 「保育者も楽しむことの大切さ」
- 「子どもの姿から保育にとって大切なことを導き出すようにすること」
- 「殻を破り、自分をさらけ出し、思い切りやること」
- 「子どもが次のステップに進めるように声をかけること」
- 「子どものよいところを見つける」
- 「子どもの気持ちに共感」
- 「子ども達の仲間として接すること」
- 「イメージの世界を大切にすること」
- 「子どもの安全」

(2年生)

- 「楽しかったと思える援助」

- 「子どもとの信頼関係を築くこと」
- 「子どもが何を楽しんでいるか見極める」
- 「見守ると待つことの違いを理解する」
- 「教材研究をもっとすること」
- 「他の保育者との連携」

③ 実習生の行動に関すること

1年生は、「クラス全体をよく見ること」と「気を利かして臨機応変に対処すること」について評価が低いと感じていた。具体的な指導内容にもそのことが表れている。2年生は、部分担任指導ではなく、全日担任も行うため、活動と活動のつながりを考えることや、全体を把握し、保育者の対応に優先順位をつけて行動する必要性についても指導を受けている。以下は、主な回答の抜粋である。

(1年生)

- 「保育者をよく見て広い視野をもつ」
- 「全体を見ること」
- 「その子に合った接し方。子どもの気持ちや言葉を先取りして言わない」
- 「積極的に子どもと接すること」
- 「友達関係が広がるような声かけをする」
- 「けんかの場合、両方の気持ちをよく聞き、子ども達がどうすればよいか考える機会をもつこと」
- 「保育者が必要な場面の判断をする」
- 「子ども達ができることは任せる」
- 「ほめるときは、体全体でほめる」
- 「立ち位置に気を付ける」
- 「手遊びの内容、タイミング」
- 「言葉使いや話し方」
- 「目線を全体に配り、声の大小や間を大切に」

(2年生)
「全体を見ながら、個々も見ていく」
「いけないことはいけないとはっきりと知らせる」
「臨機応変に対応するためパターンを考えておく」
「集中時間に合わせた保育」
「予定時間より早く活動が終わったとき、次の活動へのつながりを考えること」
「障害がある子どもへの対応」
「活動と活動の区切りをしっかりとすること」
「保育者の対応の優先順位をはっきりとする」
「全体に向けての話し方」

4 短大において実習前に望む指導

1年生は、現時点以上に実習前に何らかの指導を望む者が92名中47名(51%)いた。また、2年生は96名中46名(48%)いた。

両学年ともに、現時点以上に何らかの指導を望む者が約半数いる。内容を見ると、2年生は、実習日誌や指導案の書き方を再確認したいといったものや、配属される幼稚園についてももう少し知りたいといった1年生とは違った傾向も見られる。以下は、主な回答の抜粋である。

(1) 1年生が望む指導

「指導案の書き方、もっとこう書けばよいという改善点」
「子どもの心理について」
「手遊びや歌のレパトリー」
「子どもとの関わり方、声かけの仕方、具体的な対応について」
「家庭環境や性格の把握」
「辛さを乗り越える方法」
「担任実習のシミュレーション」
「話し合いの進め方」

「仕事の仕方」
「先輩の体験談」
「実習の前に子どもと関わる機会」
「子ども達の流行」
「発達年齢に合わせた遊び」
「事前訪問について」
「子どものテンションに注意すること」
「具体例」
「集まりの時間について」

(2) 2年生が望む指導

「授業の後にすぐ実習の方がよい」
「歌詞指導、ピアノ指導」
「以前の部分担任、全日担任の内容」
「教育方法の指導」
「行事について」
「配属される幼稚園について」
「集団活動のあり方」
「季節に合った活動の例」
「実習日誌、指導案の書き方について再確認」
「授業時間内に教材を作る時間」

まとめ

1年次の付属幼稚園における教育実習Ⅰと2年次の教育実習Ⅱでは、学生の経験の差、実習指導体制の差から短大で求められる指導の在り方も違ってくる。傾向に合わせて、事前指導を充実させることが今後一層望まれている。

- (1) 開仁志「教育実習の効果的な指導のあり方」富山短期大学紀要第41巻、2006
- (2) 開仁志「保育実習における指導に関する一考察」富山短期大学紀要第43巻(1)、2008
- (3) 開仁志「保育実習の効果的な指導のあり方」富山短期大学紀要第42巻、2007
- (4) 開仁志「保育実習の効果的な指導のあり方」富山短期大学紀要第42巻、2007、p18
- (5) 開仁志「保育実習の効果的な指導のあり方」富山短期大学紀要第42巻、2007、p18

(平成20年10月31日受付、平成20年10月31日受理)

＜資料＞アンケート内容

平成20年度教育実習アンケート

教育実習、お疲れさまでした。大変でしたが、よい経験になったと思います。今後の指導に生かしたいと思いますので、アンケートに答えていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

1 年 組 学籍番号 ()
氏名 ()

2 幼稚園名 ()
担当クラスの年齢 () 歳児
クラスの人数 () 名

3 担当していただいた保育者の方の
経験年数は？ 1つ○をつけてください。

- 1 初任 (1～5年)
- 2 中堅 (5～15年)
- 3 ベテラン (15年以上)

4 1日の保育終了後に反省会がありましたか？ 1つ○をつけてください。

- 1 全くない
- 2 数回程度
- 3 半分ほど
- 4 ほとんどある
- 5 全てある

5 普段と比べて、一日の睡眠時間の変化はありましたか？ 1つ○をつけてください。

- 1 減った
- 2 変わらない
- 3 増えた

6 教育実習中の1日の平均睡眠時間は、どれだけですか？

- 1 最低 () 時間
- 2 平均 () 時間
- 3 最高 () 時間

7 以下のことについて、1～5までの数字に○を1つ付けてください。

① 指導案の書き方について

よく注意された 1 2 3 4 5 よくほめられた

② 実習日誌の書き方について

よく注意された 1 2 3 4 5 よくほめられた

③ 一人一人をよく見て対応すること

よく注意された 1 2 3 4 5 よくほめられた

④ クラス全体を見て対応すること

よく注意された 1 2 3 4 5 よくほめられた

⑤ 各年齢の発達段階に合わせた保育をすること

よく注意された 1 2 3 4 5 よくほめられた

⑥ 積極的に先輩保育者に質問すること

よく注意された 1 2 3 4 5 よくほめられた

⑦ 気を利かして臨機応変に対処すること

よく注意された 1 2 3 4 5 よくほめられた

⑧ 実習生自身の基本的な生活習慣について

よく注意された 1 2 3 4 5 よくほめられた

⑨ 手遊びや保育教材の準備について

よく注意された 1 2 3 4 5 よくほめられた

8 教育実習を通して不安を感じましたか。
一つ選んで○をつけて下さい。

- 1 全く感じなかった
- 2 あまり感じなかった
- 3 少し感じた
- 4 とても感じた

9 教育実習を終えて、達成感がありましたか。一つ選んで○をつけて下さい。

- 1 全く感じなかった
- 2 あまり感じなかった
- 3 少し感じた
- 4 とても感じた

10 教育実習を終えて、満足感がありましたか。一つ選んで○をつけて下さい。

- 1 全く感じなかった
- 2 あまり感じなかった
- 3 少し感じた
- 4 とても感じた

11 現時点で、教職・保育職に就きたいと考えていますか。一つ選んで○をつけて下さい。

- 1 全く就きたいと思わない
- 2 あまり就きたいと思わない
- 3 少し就きたいと思う
- 4 とても就きたいと思う

12 実習日誌の書き方で指導されたことは何ですか？自由に書いてください。

13 指導案の書き方で指導されたことは何ですか？自由に書いてください。

14 保育を実際に行う上で指導されたことは何ですか？自由に書いてください。

15 教育実習を通して、不安に感じたことは何ですか。自由に書いてください。

16 不安に感じたことについてどのように対処しましたか。自由に書いてください。

17 教育実習にあたって、どのようなサポートを受けましたか。自由に書いてください。

18 そのサポートは誰から受けましたか。

19 教育実習を通して、学んだこと、身に付いたこと、変化したところは何ですか。自由に書いてください。

20 今回の教育実習の前にどんな指導があればよかったと思いますか？自由に書いてください。